

トドマツ大径材の水食い選別

森林研究本部 企画調整部 企画グループ 近藤佳秀

今後出荷が増加すると予測されている、トドマツ大径材には、水食いが多いという問題があります。

本研究では、水食いの多いトドマツの選別方法、利用方法について検討しました。

トドマツの水食いを見る

トドマツの水食いの実際を知るために原木内部での分布を3次元的に把握する試みを行いました。

今回の試験で、水食いは、髄を中心とした同心円状に分布しているものと考えられました。

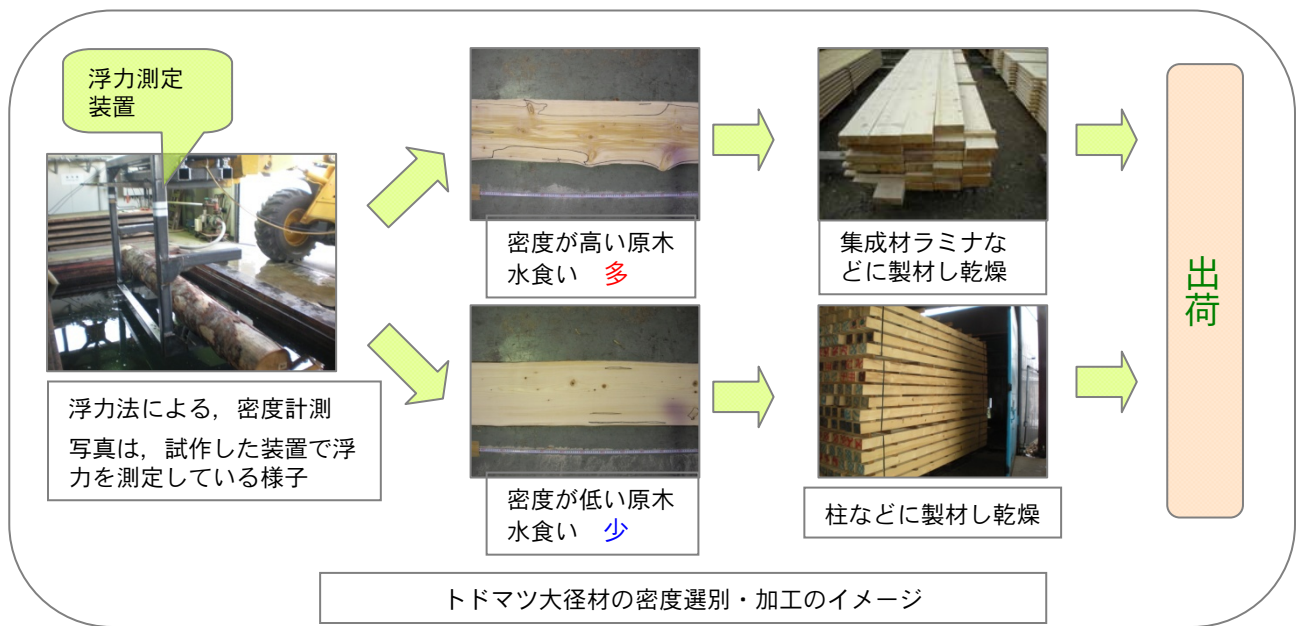
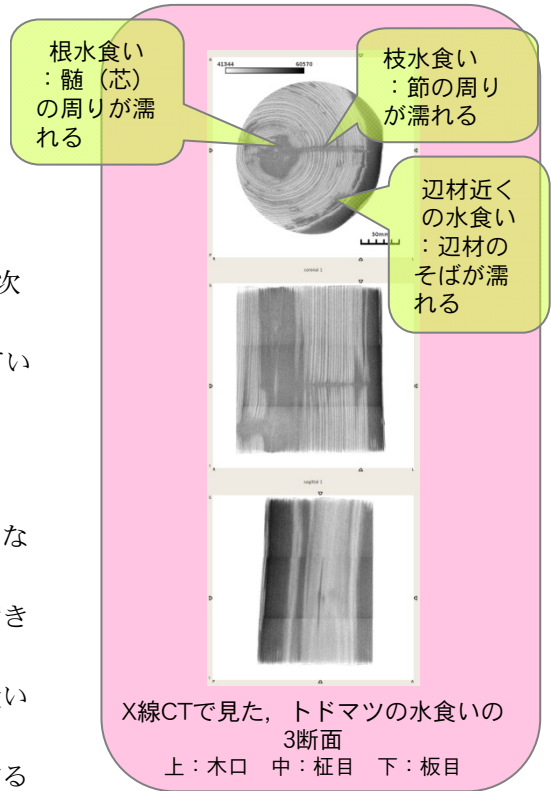
トドマツの水食いを密度で選別する

水食いが多い原木は、密度が高く、少ない原木は密度が低くなります。

密度は、水に沈めて重さを量ることで正確に求めることができます。

今回の試験では、密度が概ね750kg/m³以上の原木には水食いが多く、製材した後の乾燥に時間がかかると判断されました。

水食いが多い原木は、ラミナなどの小断面製材として活用すると乾燥コストが下がります。



今後、実大の製材試験・乾燥試験を重ねて、選別精度の向上を目指すとともに、コスト低減効果などについて検証していく予定です。